

放射線部医療安全 NEWSLETTER

2017年度 ISSUE 3 (情報提供 No. 4) 2018/3/30

- ① X線、CT、MRI 検査時の CGM・FGM・CSII の適正な取扱い啓発について
- ② 肺高血圧症患者におけるエポプロステノール在宅持続静注療法について

①

医療安全委員会では2016年8月に情報提供 No. 1「CT撮影時のインスリンポンプ【ミニメド620G】トランスミッター部故障事例」としてインスリンポンプの情報提供いたしました。以降、FGMの新機種が認可されたり、2017年9月1日インスリン治療を受けている糖尿病患者を対象に新機種への保険が適用されたりしました。また、日本のメーカーも2017年11月にパッチ式(貼り付け)インスリンポンプの製造販売承認を取得し2018年夏には販売される予定で、今後はこれらデバイスを付けた糖尿病患者がさらに増加すると思われまます。

今回、日本糖尿病協会、糖尿病医薬品・医療機器等適正化委員会から持続血糖測定(CGM: Continuous Glucose Monitoring)(FGM: Flash Glucose Monitoring)インスリンポンプ療法(CSII: Continuous Subcutaneous Insulin Infusion)を行っている患者がX線、CT、MRI等の検査を受ける時の医療関係者向けへのリーフレット*1および、患者への掲示ポスター*2が作成されたとの情報が会員より提供されました。現場でのトラブル回避に役立つ情報ですので共有させていただきます。(下記リンクよりダウンロードしてご利用ください)

協会側提示は、検査時は基本取り外しですが、ある製品について、個別に業者に照会するとMRIはだめだが、X線は良いなどまちまちな返事が返ってくることもあるようです。添付文書では、禁忌・禁止事項ではなく、使用上の注意に控えめに記載されています。【添付文書例 *3 *4】ご参照ください。

CSII、SAP、CGMを扱っている医療機関は(2018年03月現在)全国316施設あり、インスリンポンプ療法に対応している病院かどうか検索できます。*5

インスリンポンプ・持続グルコース測定器は磁気の影響を受ける可能性があります。検査前に必ず取り外しをお願いします。

インスリンポンプ

ミニメド620G 【日本メドトロニック製】 パウダイル722 【日本メドトロニック製】 TOP-8200 【トプップ】

持続グルコース測定器 (CGM/FGM)

iPro2 ミニメド620Gトランスミッター 【日本メドトロニック製】 FreeStyleリブレセンサー FreeStyleリブレProセンサー 【アボットジャパン製】

取り外しが必要なもの

| 検査 | 製品名 | 装置・検査しているもの | X線 | CT | MRI |
|------|-------------------|----------------|------|------|------|
| CSII | TOP-8200 | 注入セット | 必要なし | 必要なし | 必要 |
| | | ポンプ本体 | 必要 | 必要 | 必要 |
| CGM | ミニメド620G パウダイル722 | 注入セット | 必要なし | 必要なし | 必要なし |
| | | ポンプ本体 | 必要 | 必要 | 必要 |
| FGM | iPro2 | センサー | 必要 | 必要 | 必要 |
| | | トランスミッター・レコーダー | 必要 | 必要 | 必要 |

※本製品の使用方法については各製品ユーザーマニュアルを必ずお読みください。
 日本メドトロニック株式会社 24時間年中無休 1-5319-0105(受付) 24時間 24時間 24時間 24時間
 株式会社トプップ 03-5561-7141(受付) 03-5561-7142(受付) 03-5561-7143(受付) 03-5561-7144(受付)
 ※お問い合わせの際は、お名前・お電話番号・お住居の〒番・市町村を必ずお伝えください。
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本糖尿病協会 電話:03-5561-7141(受付) 03-5561-7142(受付) 03-5561-7143(受付) 03-5561-7144(受付)
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本糖尿病協会 電話:03-5561-7141(受付) 03-5561-7142(受付) 03-5561-7143(受付) 03-5561-7144(受付)

取り外し方法

インスリンポンプ

ミニメド620G/パウダイル722

- ① 注入セットからチューブを取り外します。
- ② ポンプとチューブを離れ、チューブも同時に取り外します。
- ③ 検査後、再びチューブを取り付けます。

TOP-8200

- ① 注入セットを離れ、取り外しします。
- ② ポンプを離れ、取り外しします。
- ③ 検査後、新しい注入セットを取り付けます。

持続グルコース測定器 (CGM/FGM)

iPro2/ミニメド620Gトランスミッター

- ① 検査前、トランスミッターからセンサーを取り外し、センサーを磁気の影響から保護します。
- ② センサーからCGM本体を取り外し、センサーを磁気の影響から保護します。
- ③ 検査後、新しいセンサーを装着し、CGM本体をセンサーに取り付けます。

FreeStyleリブレセンサー

- ① センサーの磁気の影響を受け、一部センサーで誤差が生じることがあります。
- ② 検査後、新しいセンサーを装着し、取り外しします。

FreeStyleリブレProセンサー

- ① センサーの磁気の影響を受け、一部センサーで誤差が生じることがあります。
- ② センサーの磁気の影響を受け、一部センサーで誤差が生じることがあります。
- ③ センサーの磁気の影響を受け、一部センサーで誤差が生じることがあります。

X線・MRI・CT検査を受ける患者様へ大切なお願い

インスリンポンプ及びCGM・FGM(持続グルコース測定)をご使用中の患者さまは検査前にスタッフまでお申し出ください。

医療関係者への取り扱い一覧リーフレット *1

https://www.nittokyo.or.jp/uploads/files/cgm_mri_2.pdf

患者向けポスター *2

https://www.nittokyo.or.jp/uploads/files/cgm_mri_1.pdf

添付文書例 *3

https://freestyleserver.com/Payloads/IFU/2017_nov/ART38536-001_rev-A-WEB.pdf

添付文書例 *4

https://freestyleserver.com/Payloads/IFU/2017_aug/ART34947-001_rev-A-Web.pdf

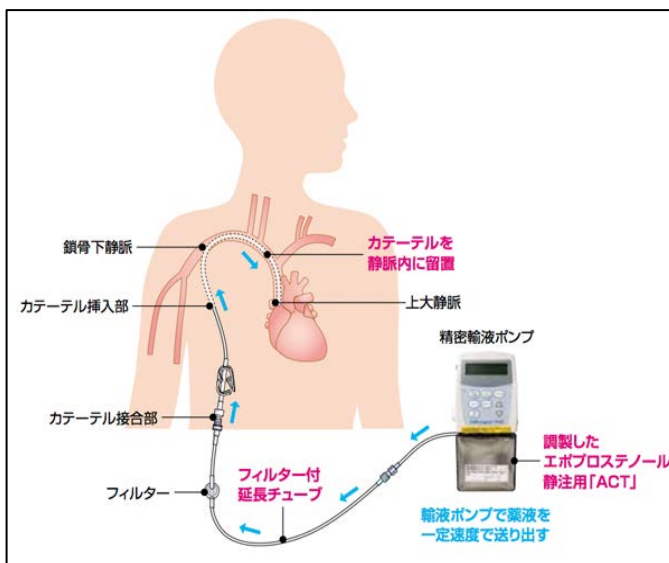
インスリンポンプ療法対応病院検索 *5

<http://www.dm-net.co.jp/pumpfile/medical/>

②

肺高血圧症患者の治療に携帯型精密輸液ポンプを用いて自宅で薬剤の持続静注療法を行うエポプロステノール在宅持続静注療法*6とされているものがあります。これについての情報も会員から頂きました、共有します。全国的に見て数は多くありませんが、このポンプはMRI および放射線治療について【禁忌・禁止】と明記されていますがX線撮影は可能との事です。

ヒックマンカテーテルを留置しそれに携帯型輸注ポンプ【デルテック CADD - Legacy ポンプ】*7をつなぎ持続的にエポプロステノール静注用「ACT」(フローラン) を注入します。*8



エポプロステノール在宅持続静注 概略*8

エポプロステノール在宅持続静注療法について*6

<http://www.ncvc.go.jp/cvinfo/disease/pph/prostaglandin.html>

デルテック CADD 添付文書*7

http://www.info.pmda.go.jp/downfiles/md/PDF/530361/530361_16300BZY00148000_A_01_04.pdf

肺高血圧症インフォ

(エポプロステノール在宅持続静注 概略)*8

<http://pah-info.jp/epoprostenol/basic04.html>

この Newsletter については、ARTNU の HP 会員ログイン
医療安全対策委員会 ⇒ 委員会年度別報告 ⇒ 2017 年度 ⇒ 医療安全対策委員会報告一覧
に掲載されています

① ② につきまして新しい情報、追加、訂正等ございましたら、皆様に周知いたしますのでお知らせください。また、医療安全に関して共有すべき情報、新しいデバイス情報等の提供もよろしくお願いいたします。

この情報は医師、技師スタッフ等に広く周知いただきますようお願いいたします。

医療安全委員会 委員長 長縄 慎二
文責 副委員長 牧 浩昭